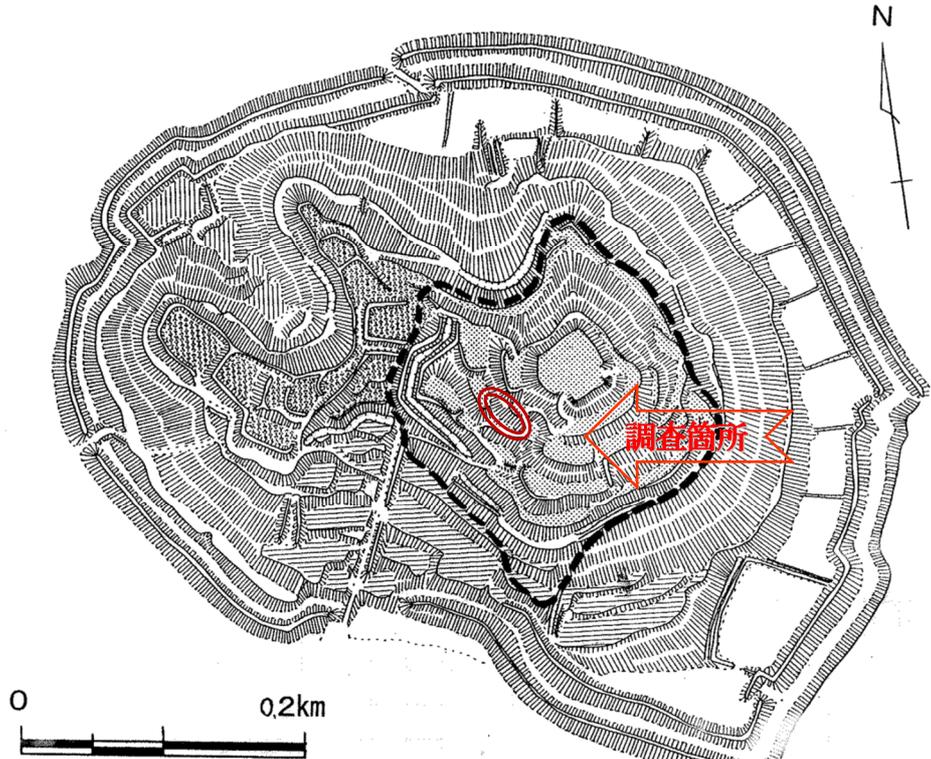


史跡小牧山主郭地区第2・3工区発掘調査

現地公開 資料

令和3年11月3日（水・祝）～5日（金）

小牧山城縄張図
(破線の範囲が主郭地区)



春日井郡小牧村古城絵図(模写 部分拡大)
※十七世紀中頃 名古屋市蓬左文庫所蔵



遺 跡 名

こまきやまじょう
小牧山城（国指定史跡 小牧山）

所 在 地

愛知県小牧市堀の内一丁目地内

調 査 理 由

史跡整備

調 査 面 積

約 100㎡

調 査 期 間

令和3年9月～令和3年12月（予定）

調 査 主 体

小牧市教育委員会

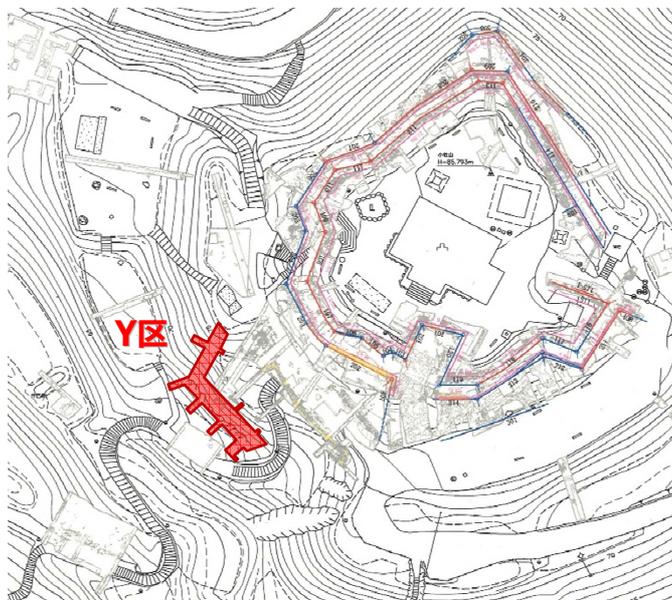


図1 調査位置（Y区）

1 調査の概要

史跡小牧山主郭地区の発掘調査は史跡整備に伴う事前調査のため、4カ年の試掘調査と11カ年の発掘調査を経て、今年度が16年目です。今回の調査と過去の調査成果から、永禄6年(1563)に織田信長が築いた小牧山城の姿が徐々に明らかになってきています。（表1）

今年度は主郭（本丸）南斜面で調査区（Y区）を設定し、調査を行いました。（図2）

調査で得られた主な成果は以下のとおりです。

調査年	調査名	主な成果
平成16年(2004)	1次試掘	石垣の存在を確認
平成22年(2010)	3次発掘	墨書石垣石材出土
平成26年(2014)	7次発掘	3段目石垣を確認
平成28年(2016)	9次発掘	大手道で岩盤と石垣の壁面を確認
平成30年(2018)	11次発掘	「信長の館」の可能性のある建物跡を確認
令和元年(2019)	12次発掘	大手道で岩盤と石垣の壁面を確認
令和2年(2020)	13次発掘	石垣と庭の可能性のある玉石敷遺構を確認

表1 これまでのおもな調査成果

2 調査成果（何が見つかったのか）

【1】小牧山城の主郭(本丸)に至る大手の登城路が広い道幅を有し、その山側には岩と石垣の壁面がそそり立つ構造を持つことが確認されました。

小牧山の南斜面、麓から続く大手の登城路に沿って位置する今回の調査区は、第9次(平成28年度)、第12次(令和元年度)発掘調査で確認された登城路に沿った岩盤壁面の延長とその下の路面にあたります。登城路の一部は現在も園路の一部と重複しますが、調査により、道幅は山の斜面にも関わらず山本来の岩盤を削平して9.5～10mもの幅員を持つことが判明しました。（図2・3、写真1）確認できた路面の総延長は約19mです。

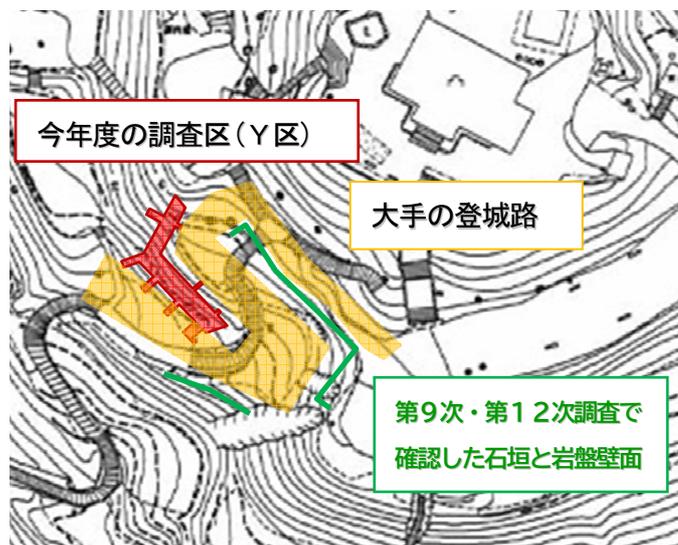


図2 現況地形図と築城当時の大手道の比較



写真1 調査区（Y区）全景

【2】確認された壁面は、2段の石垣と人工的に切りたてられた岩盤で構成されていることが判明しました。大手の登城路で石垣を2段を有している状況が確認できたのは今回の調査箇所が初めてです。

登城路に沿った壁面は上半が2段の石垣、下半が小牧山本来の岩塊を人工的に切り立てて、より急な傾斜と石の外観を持っていることが明らかとなりました。（写真1）

見つかった石垣は（上段）高さ0.6m、延長11.8m・（下段）高さ1m、延長9.7mですが、裏込石の残存範囲から当時の高さは（上段）約1m、（下段）約1.4m程度だったと推定されます。（写真2・3）石垣石材は、小牧山産の堆積岩（チャート）が主体で、1石のサイズは横幅50～100cm、高さ20～60cm、奥行40～50cm程度です。加工されていない自然石を用いていますが、おおよそ直方体の形状をした石材を多く用いています。これまでの調査で確認した、主郭を囲む石垣のうち、石垣Ⅱ（2段目）、石垣Ⅲ（3段目）では30～50cm大の石材が主体であったことと比較して、それらより大きな石材が用いられていることが特徴です。

岩壁は石垣の下もっとも高い箇所では約3mの高さで人工的に切り立てられています。路面にあたる部分は岩盤を人工的に水平に削平しています。切りたてられた岩盤の傾斜（勾配）は約70度前後で、これは上下段の石垣やこれまでの調査で確認した主郭を囲む石垣や岩盤壁面の勾配とも一致します。



写真2 石垣列（上・下段）



写真3 石垣列（下段）

3 まとめ（何が明らかになったのか）

信長は付表2のように本拠地を清須⇒小牧⇒岐阜⇒安土と移しています。

小牧山城で、主郭に至る大手の登城路について具体的な状況を確認でき、その規模や構造が予想以上に大がかりであったことが判明しました。(図3)永禄12年(1569)に信長の岐阜城を訪問した宣教師ルイス・フロイスは岐阜城には「途切れることのない岩の壁」が連なっていた、と記しています。今回の調査で確認した岩盤と石垣の壁面は、過去の調査成果(写真4・5)と合わせてこの「岩の壁」に相当するものが小牧山城にも存在していたことを物語っています。**小牧山城で用いられた城郭、城道の建築思想や要素が、後の城郭にも影響を与えたと評価できます。**

付表1：小牧山の歴史

時代	年	できごと
戦国時代	永禄 6年 (1563)	織田信長が小牧山城を築城し、清須から移る。小牧山南麓には城下町を整備した。
	10年 (1567)	織田信長、稲葉山城を攻略。岐阜と改称し、小牧山から居城を移す。小牧山城は廃城となる。
安土桃山時代	天正12年 (1584)	小牧・長久手の戦い (羽柴秀吉軍と織田信雄・徳川家康連合軍の戦い) 徳川家康は織田信長の小牧山城跡を改修して陣城を築く。
江戸時代	慶長年間	名古屋城築城。小牧山城の石垣を持ち出しか？
		小牧山は尾張藩領となり、家康公ゆかりの地として、一般の入山が禁止される。
明治時代	明治 2年 (1869)	版籍奉還により、小牧山は国有地となる。
	5年 (1872)	県立小牧公園として一般公開される。
	22年 (1889)	小牧山が徳川家の所有となり、一般公開を止める。
昭和～平成	昭和 2年 (1927)	10月26日 国の史跡に指定される。
	5年 (1930)	徳川家から小牧町へ小牧山が寄付される。
	22年 (1947)	東麓に小牧中学校が建設される。
	43年 (1968)	山頂に小牧市歴史館が建設される。
	平成10年 (1998)	小牧中学校を史跡外へ移転する。
	15年 (2003)	小牧中学校跡地を史跡公園として整備、開放される。
	16年 (2004)	主郭地区試掘調査開始（～平成20年まで：第1～4次調査）
	20年 (2008)	主郭地区発掘調査開始（～令和2年まで：第1～12次調査）
31年 (2019)	小牧山城史跡情報館（れきしるこまき）オープン	

付表2：織田信長天下統一への過程と城郭

年代	信長年齢	できごと	城郭名	信長築城か？
弘治 元年 (1555)	22 歳	清須城入城	清須城 : 石垣なし	×
永禄 3年 (1560)	27 歳	桶狭間の戦いで今川義元を討つ		
永禄 6年 (1563)	30 歳	小牧山城築城、清須から移る	小牧山城 : 石垣構築	○
永禄10年 (1567)	34 歳	稲葉山城攻略、岐阜城と改め 小牧山城から移る	岐阜城 (千畳敷) : 巨石石積	改修
天正 4年 (1576)	43 歳	安土城築城開始	安土城 : 総石垣	○
天正10年 (1582)	49 歳	本能寺の変		

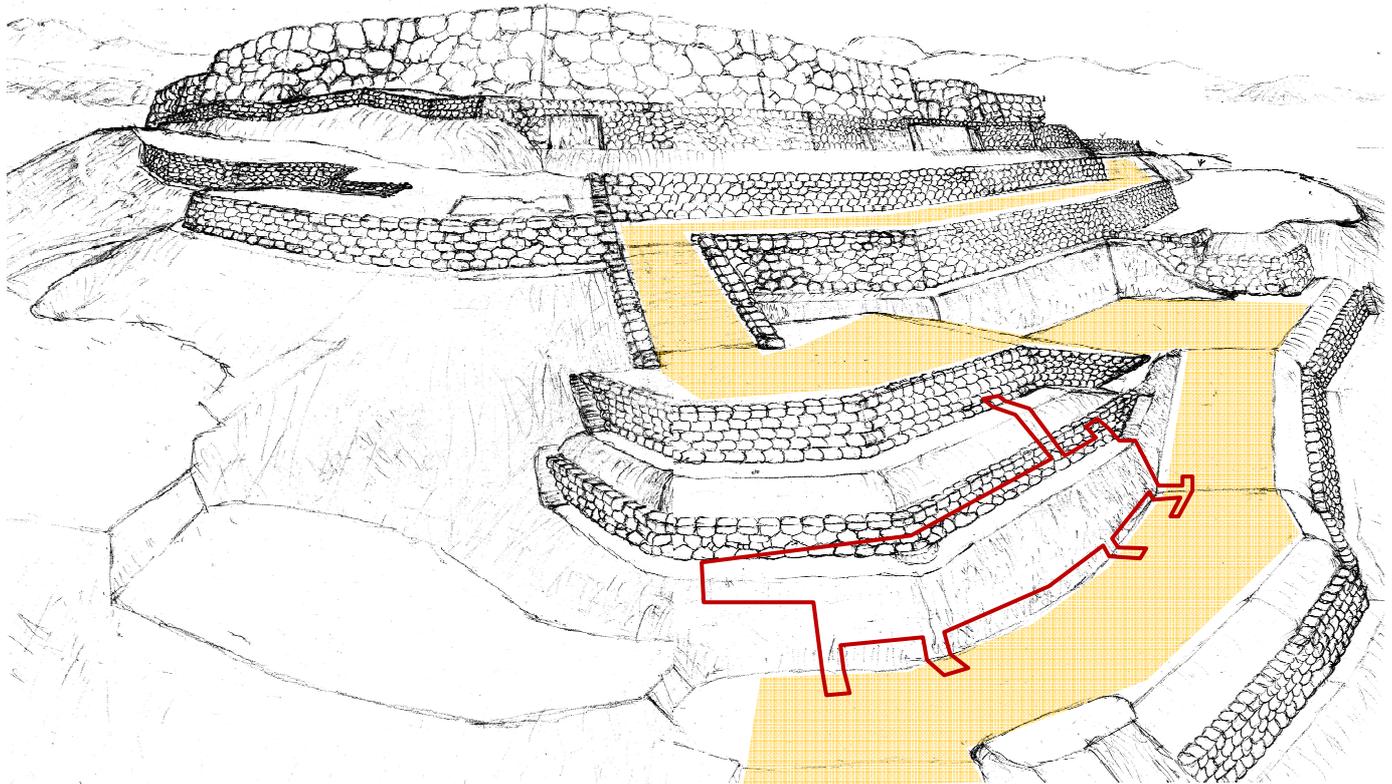


図3 今年度調査区周辺推定復元図（作画：平手 卓氏）

【参考写真】



写真4 第9次調査で確認した石垣、岩盤壁面、路面



写真5 第12次調査で確認した石垣と岩盤壁面

史跡整備工事实施中です

小牧市では、市のシンボル「小牧山」の整備を進めています。

山頂一帯で、これまでの発掘調査成果を反映して、石垣の復元や園路の整備等を行います。工事は5か年に分けて実施する計画で、今年度は小牧市歴史館北側部分（右図参照）を整備します。工事期間中は山頂の一部が利用できなくなります。また、山の中を工事車両が往来します。

整備工事中はご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願い致します。

